

監査報告書	被監査部門 経営トップ・経営管理部門・営業部・業務部	監査番号 20191202-1
		監査年月日 令和1年12月19日（木）
監査範囲 運輸安全マネジメント全般・業務運営体制・法定書類及び掲示物な度全て		
監査チーム 監査リーダー 千代信好 監査員 佐藤彰洋 監査員 渡邊知彦		
1. 監査の目的 運輸安全マネジメント 内部監査手順書及び内部監査スケジュールに基づく社内監査		
2. 監査の講評・所見 第1回 重点監査項目チェックリスト兼報告書及び内部監査チェックリスト、法廷監査事項、にて報告		
3. 優良事例		
4. 指摘事項 第1回 重点監査項目チェックリスト兼報告書及び内部監査チェックリストにて報告		
5. 重点監査項目の所見 第1回 重点監査項目チェックリスト兼報告書にて報告		

監査報告書	被監査部門 経営トップ・経営管理部門・営業部・業務部	監査番号 20191202-1
		監査年月日 令和1年12月19日(木)
6. 前回監査での指摘事項に対する改善状況		
第1回 重点監査項目チェックリスト兼報告書及び内部監査チェックリストにて報告		
7. 安全統括管理者の所見		
<p>白手垢差呼称による安全確認は、バスが動く前、交差点、合流地点、バンク時等、ほぼ実施できると見えます。この成果も有り、無事故毎目標の18件以内に対しギリギリではあるが17件にとどまり目標達成です。また、無事故無傷は1425日以上と有り、今後を続けたいです。イベントの発生はまだまだあるのでこの情報を収集し無事故を続けたいです(よう)。</p>		
8. フォローアップ監査の予定		
監査予定日 令和2年4月 社内監査予定		
監査の結果		
9. その他特記事項		

承認	確認	作成
12月21日	1.12.20	R1-12-19
安全統括管理者	監査リーダー	内部監査員

(別紙 2-1)

運輸安全マネジメント

第1回 重点監査項目チェックリスト兼報告書


実施年度 (令和1年度)

(監査実施基準月 原則 3月末, 6月末 9月末 12月末)

今回実施基準月 12 月末

監査実施日 令和1年12月19日

社 長 

安全統括管理者 

内 部 監 査 員 

役席及び
業務部回覧



郡山中央交通 株式会社

第1回 重点監査項目チェックリスト (1年度) (別紙5-2)

評定 A: 達成度合い 90%以上 B: 同 70%以上 C: 同 50%以上
 D: 同 30%以上 E: 同 30%以下

実施項目	監査所見	評定
1、「白手指差し呼称」による 安全確認の徹底	すでに全社的に浸透し、また新入乗務員への講習も徹底している。路上における目視による抜き打ちチェックも5回中5回とも行っていたので、限りなく実施率100%と云っていいと判断される。	A
2、無事故（車両の無傷）記録の達成 ①重大事故の発生防止 発生 ゼロ件 ②車両の無傷記録年度目標を18件以内とする ③無傷記録継続日数60日以上を達成する	①重大事故の発生ゼロで推移中。 ②12月19日現在で17件の発生で年内18件に収められている。何とか年末までで達成できるよう指導監督を徹底する。 年間目標を掲げてから、一度も達成出来なかった、無傷記録継続期間60日以上を始めて達成出来たので評価としてはA評価としても良いと判断	A
3、路上故障防止の為の日常点検の徹底と3か月点検の強化	車検や3ヶ月点検については、業務部と連携し、確認しているが時期のずれ（法令違反には当たらない程度）などが見受けられた。但し、ドラレコ・デジタコの装着について時期の遅れが見られ、12月1日以降何台か運行できない車両が発生したことはスケジューリングも含め重大な問題だと認識、今回は判定を厳しくした。	E

<p>4、ヒヤリハット情報収集によるその活用と指導教育</p>	<p>監査日基準で収集件数79件にとどまっております。監査部からは毎月定期的に情報発信を行い、提出の依頼をしているが、毎年未達となっている状況を鑑み、来年度は何か別途対応策を練る必要がある。評価はE。</p>	<p>E</p>
<p>5、健康管理体制の構築 (定期健康診断の結果、医師の指導のある該当者には面談指導を実施し記録を残す)</p>	<p>定期健康診断については、総務部と連携し対象者全員の受診を実施済み。面談及び面談結果記録については、菅野部長を中心に対処中。SAS（睡眠時無呼吸症候群）のチェック及び脳ドックへの乗務員の受診及び指導も推進されており、評価はAとする。</p>	<p>A</p>
<p>6.適正な運行管理と労働管理の為の社内監査体制を構築する。</p>	<p>運行に関わる法定資料、いわゆる4点チェックを中心に、社内内部監査及び各営業所模擬監査を行うために内部監査手順書を改良するなど監査体制を構築した。但し、安全性評価認定申請やその補正作業、その他申請作業と時期が重なった為、本年度3回実施を予定していた社内監査が12月の1回になってしまったため、評価はCとする</p>	<p>C</p>